

2013年3月31日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀 伊 國 献 三 殿

施 設 名 医療法人 東札幌病院

札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35

代 表 者 理事長 石谷 邦彦



2012年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 2012年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業
- 2 期 間 2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記 I ～ III を A 4 縦判・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の主な使途 (人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書でなく、当該助成計上部分のみで可)
*決算期の関係で2012年3月18日(月)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日: 2013年 月 日)
 - V 添付書類
当該施設の研修カリキュラム(パンフレットでも可)

平成 24 年度 ナースのためのホスピス緩和ケア研修

2013 年 3 月 29 日

1. 研修目的

ホスピス緩和ケアに携わる質の高い専門ナースを育成する。

2. 研修目標

- 1) がんを発症してから現在にいたるまでに受けた医療のプロセスについて、患者・家族の話をよく聴き理解することができる。
- 2) がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状緩和ができる。
- 3) インフォームドコンセントのガイドラインを理解し、実践することができる。
- 4) セデーションのガイドラインを理解し、実践することができる。
- 5) 患者・家族の喪失・予期悲嘆に伴う精神的支援ができる。
- 6) 臨床倫理検討シートを活用し、合意を目指したコミュニケーションが実践できる。
- 7) 緩和ケアにおけるチーム医療を実践する。
- 8) 遺族ケアの必要性とケアを理解し、実践できる。

3. 研修方法

- 1) 緩和ケアの基盤となる知識の理解と適用
- 2) 的確なアセスメントに基づく問題の明確化
- 3) アセスメントに基づく効果的、計画的なケアの実施
- 4) 評価
 - 1) ～4) のプロセスを基盤とする演習や実習（事例検討・まとめ・発表）を主なものとする。

臨床実践能力を、チーム医療における他の専門職者との連携や協働を通して獲得できるよう、カンファレンスや事例検討の場で主体的に学習する機会をつくる。

4. 研修生 6 名

期間	研修生	研修場所
7 月 17 日～8 月 3 日	荒川 郁美（独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター） 吉田 直美（茨城県立中央病院）	西棟 PCU
8 月 13 日～8 月 31 日	池田 亜樹子（社会医療法人恵和会 西岡病院） 荘司 美紀（千葉大学医学部付属病院）	東棟 PCU
9 月 10 日～9 月 28 日	斎藤 久美代（吉田病院）	東棟 PCU
11 月 5 日～11 月 22 日	江蔵 祐希（名古屋第一赤十字病院）	東棟 PCU

5. 講義内容

- 1) がんの進行に伴う緩和ケア
 - ・ 緩和医療・緩和ケア
 - ・ 症状マネジメントとケア
 - ・ がん性疼痛のメカニズムと疼痛アセスメント、ケア
 - ・ 患者・家族の危機状況のアセスメントと支援
 - ・ 臨床倫理の実際
- 2) チーム医療における援助

- ・ スピリチュアルケア
- ・ 患者・家族・遺族への心理社会的支援の実際
- ・ チーム医療とソーシャルワーカーの役割
- ・ 在宅緩和ケア

6. 研修内容

1) 研修課題

- ・ 研修生は自己課題にそって研修を行います。
- ・ 患者を1名受け持ち、看護過程を展開します。
- ・ 看護の展開に関しては、当院で使用している緩和ケア事例検討用紙を使用します。

2) 研修場所

- ・ 緩和ケア病棟（東棟・西棟）
- ・ 訪問看護ステーション東札幌

3) 研修方法

- ① 受け持ち患者さんは研修生が選択し、担当者と相談の上、決定します。
- ② 受け持ち患者には、所定の同意書を用いて受け持つことを説明し、同意の上研修を開始します。
- ③ 研修生は、毎朝研修開始前にその日の研修内容を担当者と調整をします。
- ④ 与薬などの医療行為の実施に関しては、担当者とともに実施します。
- ⑤ 病棟カンファレンスに参加し、チームの一員として情報交換・情報共有します。
- ⑥ 研修生は実施したケアの結果を担当者に報告してください。
- ⑦ 個人情報に関する守秘義務を徹底します。

4) 研修スケジュール

- 【1週目】 ・ 緩和ケア病棟オリエンテーション
(二井矢ひとみ看護課長・青田美穂看護課長)
- ・ 看護師と共に、ケアに入り、緩和ケアの実際をみる。
 - ・ 院内研修参加
 - ・ 専門看護委員会参加
- 【2週目】 ・ 疼痛ケア事例検討シートについて（看護課長）
- ・ 在宅緩和ケア：訪問看護ST東札幌研修（田村緑所長）
- 【3週目】 ・ 臨床倫理委員会の活動について（長谷川美栄子看護部長）
- ・ チーム医療とソーシャルワーカーの役割（田村里子MSW部長）
 - ・ 緩和ケア外来の見学
 - ・ カンファレンスでの事例検討（緩和ケア事例検討用紙を使用する）

*その他

- ① 1日目は、東札幌病院東棟正面玄関前に8時までに集合してください。
ロッカー室へご案内します。
- ② ユニホーム・名札・靴は、勤務でご使用のものを持参してください。
- ③ 昼食は、職員食（1食300円）を頼むことができます。病院内に売店もありますので、購入可能です。1日目に確認します。
- ④ 宿泊施設に関する問い合わせは、総務課課長伊藤（TEL011-812-2311 内線1174）にお願いします。

II 内容・実習経過

初日のオリエンテーションで研修生の課題に合わせて予定を組み、週間スケジュールに沿って研修をすすめていきました。西棟 PCU28 床と東棟 PCU30 床の病棟 2 箇所あるため、看護課長・スタッフで研修生の情報共有をして関わらせていただきました。

今年度も前年度に引き続き、両 PCU の病棟医長・病棟課長・MSW・外来看護課長・入院調整担当者で行う「入棟判定会議」に参加していただき、入院患者の情報共有と緩和ケア病棟の待機の患者の状況を確認しました。また、「緩和ケア外来」の見学を行い、患者・家族の緩和ケアに対する期待やどのような病状や気持ちで当院を受診され、入院予約をすることになったのか、さらに受診時の医師・看護師・MSW の役割についても学ぶ機会を持つことができました。

研修生は、1 人の患者を受持ち、病棟のスタッフと共にケアをすすめ、トータルペインの視点で事例をまとめ、カンファレンスを行いました。1 人の患者とじっくり関わることで、身体的側面だけではなく、心理・社会的側面にも目を向ける機会となっていました。

チーム医療という面で、病棟のカンファレンスに参加したり、他職種との調整時にも参加することで、医師、MSW、作業療法士、栄養士、薬剤師、ボランティア等の他職種との連携の重要性についても理解していただきました。特に病棟で行われているボランティア活動の中で、ティータイムなどに参加していただき、患者の QOL 向上にボランティア活動が重要な位置を占めていることも理解していただきました。

緩和ケアを希望される患者は、入院だけではなく、在宅という選択肢があり、訪問看護師と共に実際に在宅で過ごされている患者のもとを訪問することで、どのような社会資源を利用しながら過ごされているのか知る機会となりました。

研修生の中には、自施設で教育的な役割をとられている方もおり、当院看護部の教育体制や教育の内容、病棟での教育体制なども説明させていただき、参考にさせていただきました。

III. 実習成果

研修生の実習目標に対する評価では、「a：十分達成」「b：達成」がほとんどでした。研修生の 1 人が「c：まあまあ」と評価していましたが、「精神的苦痛、霊的苦痛のある患者と接し、スタッフがどのように支援しているのか学ぶ」という目標を立てており、見学はできたものの、自分が現場でできるかという自信がないという評価でした。研修生の施設に合わせて、具体的に実現可能なことを一緒に考えられるような関わりが必要だったと思います。しかし、トータルペインの視点で患者を捉えることの重要性和カンファレンスを通して、チームで関わることの重要性などは学んでいただけたと思います。特に MSW とボランティアの役割については講義もあり、具体的に学べたようです。さらに、訪問看護の同行訪問を行ったことで、病棟との違いや訪問看護師の短時間での関わりの中で行うケアの工夫について学べたようでした。当院で月 1 回開催している遺族会にも参加した研修生は、家族の悲嘆過程の姿をみることができ、遺族ケアの重要性を学べたようです。

また、院内の研修会や専門看護委員会にも研修生の課題に合わせて参加していただき、スタッフの経験等に合わせて内容を検討し伝えていくことや、定期的に学習する機会をつくる必要性を感じたと評価していた研修生もいました。

実習プログラムの内容、実習の受け入れ体制、実習指導に対しては、「a：大変良い」「b：良い」がほとんどでした。実習体制に対しては、ほぼ満足していただけたようで、個々の実習課題達成に向けて、有意義な時間をつくれたように思います。

(記 東札幌病院 西棟緩和ケア病棟看護課長・教育担当 二井矢ひとみ
東棟緩和ケア病棟看護課長 青田美穂)

平成 24 年度 ナースのためのホスピス緩和ケア研修

2012 年 7 月 17 日

1. 研修目的

ホスピス緩和ケアに携わる質の高い専門ナースを育成する。

2. 研修目標

- 1) がんを発症してから現在にいたるまでに受けた医療のプロセスについて、患者・家族の話をよく聴き理解することができる。
- 2) がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状緩和ができる。
- 3) インフォームドコンセントのガイドラインを理解し、実践することができる。
- 4) セデーションのガイドラインを理解し、実践することができる。
- 5) 患者・家族の喪失・予期悲嘆に伴う精神的支援ができる。
- 6) 臨床倫理検討シートを活用し、合意を目指したコミュニケーションが実践できる。
- 7) 緩和ケアにおけるチーム医療を実践する。
- 8) 遺族ケアの必要性とケアを理解し、実践できる。

3. 研修方法

- 1) 緩和ケアの基盤となる知識の理解と適用
 - 2) 的確なアセスメントに基づく問題の明確化
 - 3) アセスメントに基づく効果的、計画的なケアの実施
 - 4) 評価
 - 1) ～ 4) のプロセスを基盤とする演習や実習（事例検討・まとめ・発表）を主なものとする。
- 臨床実践能力を、チーム医療における他の専門職者との連携や協働を通して獲得できるよう、カンファレンスや事例検討の場で主体的に学習する機会をつくる。

4. 研修生 数名

5. 講義内容

- 1) がんの進行に伴う緩和ケア
 - ・ 緩和医療・緩和ケア
 - ・ 症状マネジメントとケア
 - ・ がん性疼痛のメカニズムと疼痛アセスメント、ケア
 - ・ 患者・家族の危機状況のアセスメントと支援
 - ・ 臨床倫理の実際
- 2) チーム医療における援助
 - ・ スピリチュアルケア
 - ・ 患者・家族・遺族への心理社会的支援の実際
 - ・ チーム医療とソーシャルワーカーの役割
 - ・ 在宅緩和ケア

6. 研修内容

1) 研修課題

- ・研修生は自己課題にそって研修を行います。
- ・患者さんを受け持ち、看護過程を展開します。
- ・看護の展開に関しては、当院で使用している緩和ケア事例検討用紙を使用します。

2) 研修場所

- ・緩和ケア病棟（西棟・東棟）
- ・訪問看護ステーション東札幌

3) 研修方法

- ① 受け持ち患者さんは研修生が選択し、担当者と相談の上、決定します。
- ② 受け持ち患者には、所定の同意書を用いて受け持つことを説明し、同意の上研修を開始します。
- ③ 研修生は、毎朝研修開始前にその日の研修内容を担当者と調整をします。
- ④ 与薬などの医療行為の実施に関しては、担当者とともに実施します。
- ⑤ 病棟カンファレンスに参加し、チームの一員として情報交換・情報共有します。
- ⑥ 研修生は実施したケアの結果を担当者に報告してください。
- ⑦ 個人情報に関する守秘義務を徹底します。

4) 研修スケジュール

- 【1 週目】
 - ・緩和ケア病棟オリエンテーション（看護課長）
 - ・看護師と共に、ケアに入り、緩和ケアの実際をみる。
 - ・院内研修参加
 - ・専門看護委員会参加
- 【2 週目】
 - ・疼痛ケア事例検討シートについて（看護課長）
 - ・在宅緩和ケア：訪問看護 S T 東札幌研修
- 【3 週目】
 - ・臨床倫理委員会の活動について（看護部長）
 - ・チーム医療とソーシャルワーカーの役割（MSW）
 - ・カンファレンスでの事例検討（緩和ケア事例検討用紙を使用する）

*その他

- ① 1 日目は、東札幌病院東棟正面玄関前に 8 時までに集合してください。
ロッカー室へご案内します。
- ② ユニホーム・名札・靴は、勤務でご使用のものを持参してください。
- ③ 昼食は、職員食（1 食 300 円）を頼むことができます。病院内に売店もありますので、購入可能です。1 日目に確認します。
- ④ 宿泊施設に関する問い合わせは、総務課課長伊藤（TEL011-812-2311 内線 1174）にお願いします。
（問い合わせ先 TEL 011-812-2311 FAX 011-823-9552）
（西棟緩和ケア病棟看護課長・教育担当 二井矢ひとみ）